

# 内山・桃の木地区

## 地域づくり計画書



平成 27 年 9 月

# 1. 現状と課題（内山・桃の木地区）

## (1)自然環境.

内山・桃の木地区は、龍良山、矢立山、舞石ノ壇山などの山々に囲まれ、対馬では珍しいすり鉢状の盆地に位置しています。また、海を持たない地区のため、古くから炭焼きや畑づくりなどの里山の暮らしが長く維持されています。

さらに、対州馬の乗馬体験や農業体験などの体験プログラム、鮎もどし自然公園や展望台からの自然景観、お客様を受け入れる民泊農家など内山地区の地域資源を活用したグリーンツーリズムの取り組みも推進しています。

## (2)道路とアクセス

巖原市街地から海岸添いに巖原豆酸美津島線が町の中央部を走り向山を斜めに登りトンネルを経て尾浦方面、内山峠と続いています。近年では巖原港湾整備計画の一環として片側一車線の湾岸道路が整備され、巖原市街地との時間的距離が一層短縮されました。市民の足としてはコミュニティバスが巖原一内山間を定期的に運航しており、通勤通学や買い物等に利便がはかられています。

## (3)地区の状況

平均年齢が60歳以上と高齢者がほとんどを占める地区となっていることもあり、古くから盛んだった農業等も衰退の一途を辿っています。そのため、イノシシやシカなどの食害により、薪炭林の萌芽の更新がうまくいかず、樹木が枯死しています。

しかし、地区の住民の方々は地区の活性化を望む人もいることもあり、過去行われていた盆地祭りを復活させようとする動きが出てきています。また、森のミニ博物館で月に1回体験教室を開催しています。

## (4)地区の活動

内山地区では月に1回、神社、憩いの家の清掃活動を行っています。また、無人販売所での野菜等の販売や観光客等呼び込むため鮎もどし自然公園の清掃を定期的に行い、地区の活性化を図っています。また、秋には敬老会イベントを行っています。

## 2. 私たちが大切にしたいこと

### 暮らし

自然豊かでのんびりした雰  
囲気  
子どもが野山で遊べる環  
境、仲良しの近所づきあい

### なりわい

米・野菜作り、牛飼い、  
対州馬、炭焼き、  
無人販売所

### 学び・交流

地区の文化・祭り、  
敬老会のイベント、  
森のミニ博物館（内山分校  
跡地）

### 風景・環境

鮎もどし自然公園、竜良  
山、ヤマネコ野生順化施  
設、  
定期的な清掃活動

### 3. 目指す地域の将来像

## 「うちんもんもどこんもんも寄ってこい内山」

### ～人と人との交流を大切にする地区を目指して～

内山地区を瀬地区に向けて車ではしると、5分程で地区を抜けます。その川沿いには藤が咲いており、道沿いにも花が植えられています。花や木々、田畑の景観が地区を通る人の目を楽しませています。川沿いや道路脇が整備されており、住民が安全に生活できます。清掃活動が継続して行われており、地区の環境美化に努めています。

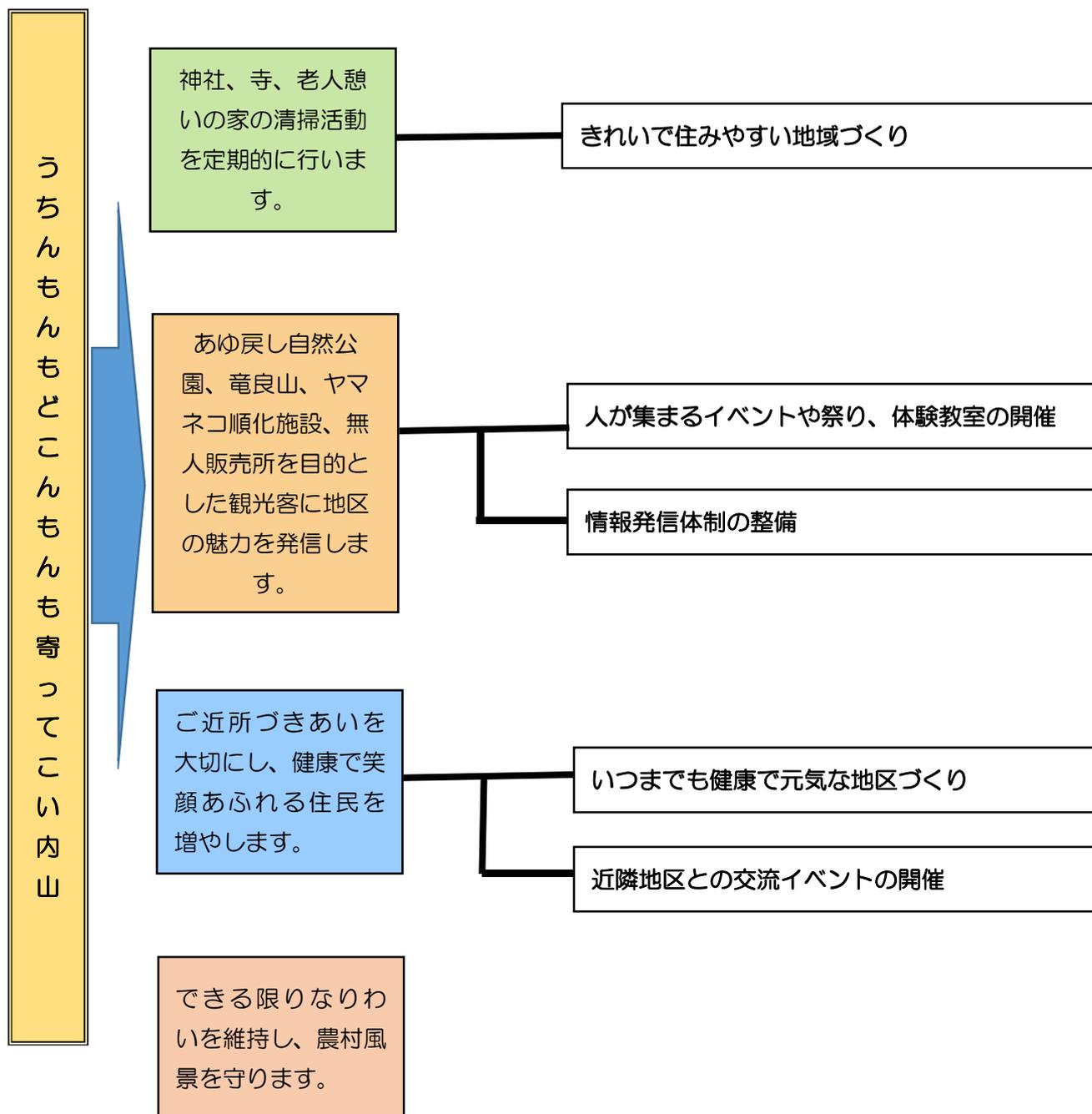
鮎もどし公園や竜良山、ヤマネコ順化施設を目的に訪れる人達が増えています。森のミニ博物館や休耕地を利用し、川遊び、釣り、虫取り、物作り、牛・刈馬ふれあい体験等が開催されています。他にも内山地区の名前がついたイベントを年1回行っています。

それらのイベントの案内や、地区に点在する無人販売所についてホームページやfacebookなどを活用し情報発信しています。それらを利用されない方のためにも地区の「見所マップ」を作り、人が集まる商店や集会施設等広く掲示してお知らせしています。教室やイベント、祭りの開催で内山地区に訪れる人も増え、地区住民と交流するよい機会になっています。

ご近所づきあいを大切にし、いつまでも健康で笑顔があふれる住民をふやすことを目的に、住民は年1回必ず健康診査を受け、自分の、家族の、地区全体の健康管理につとめています。高齢者も増えているので、高齢でも参加できるイベントを行っています。内山地区だけでなく、他の久田小校区や隣の瀬地区など、近隣地区との交流会を行っています。会は敬老会だけでなく、親子で参加できるもの、婦人、男性など幅広く交流しています。

内山地区の特徴的ななりわいとして炭焼きや牛飼、米、椎茸栽培、野菜作りなどがあります。兼業農家が多いのも特徴的です。シカ・イノシシから、山や里を守っています。循環型・有畜複合型農林業を目指しています。地区の住民が高齢化しているので、農業委員会を通し、希望者に土地を貸し出しています。土壌改良や栽培しやすい農産物をさがすなどして、農家が農地を守っています。育てるだけでなく栽培作物の買い取り、加工品作りなど地区でまとまった販売方法も検討しています。炭焼きを続けるために樹木の育成にも努めています。農林業の後継者不足が解消され、内山地区の農村景観が守られています。

## 4. 活動の4つの柱と取り組み事項



## 1. 神社、寺、老人憩いの家の清掃活動を定期的に行います

### (1) きれいで住みやすい地域づくり

目指す  
近未来の  
姿

地区内の清掃活動を継続して行っています。  
川や道路脇が整備されており、住民が安全に生活できます。  
地区にはたくさんの花が咲いており、通る人たちの目を楽しませています。

#### 〔現状と課題〕

- ・月1回、神社、憩いの家の清掃を行っているが、ポイ捨て等が増えている。
- ・神社への参道が古くなり、歩きづらい状態である。
- ・自生の藤を増やし、川辺に植えようとしているが、中々、進展が進まない現状である。

#### 〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 清掃については継続して行います。
- ☞ やまがた神社の参道については、行政などへ相談し、活用できる補助金等を使い整備を行います。
- ☞ 藤は計画的に川辺に植えていきます。
- ☞ 使われていない田畑については、農業委員会を通じ、耕作放棄地解消につとめます。



#### 〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 川辺や道路脇にたくさんの花が咲き、観光やドライブで訪れた方々の目を楽しませます。

## (1) 人が集まるイベントや祭り、体験教室の開催

1

目指す  
近未来の姿

森のミニ博物館や休耕地を活用し、各種体験教室やイベント、祭りを企画し、交流の場がうまれています。

### 〔現状と課題〕

- 森のミニ博物館で月1回の体験教室の開催や農業体験もできる民泊を行っているが周知ができていない。
- 内山盆地祭りが終わり、他地区の人たちが内山を訪れることが減少している。

### 〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 地区の活性化を図るため協議し、地区内で可能な体験の洗い出しを行います。
- ☞ 体験教室（川遊び、川釣り、虫取り、物づくり、牛や対州馬ふれあい体験等）、内山盆地祭りのようなイベントを定期的で開催します。



### 〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 人口減少の加速化に伴い、地区だけでの自主開催が困難になるため、久田小学校区内で一緒になり、企画などを行っていきます。

## (2) 情報発信体制の構築



目指す  
近未来の  
姿

無人販売所情報やイベント案内などを随時発信しています。

### 〔現状と課題〕

- 無人販売所や内山あゆ戻し公園に対する、情報発信ツールがない。
- 内山盆地の里やまねこ会がホームページ等を立ち上げているが、中々、発信できる情報がすくない。

### 〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 地区の見所をマップ上につくりにあたり、まず、危険箇所等の洗い出しや見所の抽出を行います。
- ☞ 上記の確認ができれば、マップを作り、掲示をします。
- ☞ 無人販売やイベント情報を地区内で活動している内山盆地の里やまねこ会と協力し、SNS等を活用し、発信していきます。



### 〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 無人販売やイベント情報を地区内で活動している内山盆地の里やまねこ会と協力し、SNS等を活用し、発信していきます。



### 3. ご近所づきあいを大切に、健康で笑顔あふれる住民を増やします。

#### (1) いつまでも健康で元気な地区づくり

目指す近未来の姿

いつまでも健康で元気に生活できる高齢者が増えています。

##### 〔現状と課題〕

地区の高齢化が進んでいる。年1回敬老会イベントを行っている。

##### 〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 健診受診の呼びかけを行います。
- ☞ 敬老会は継続して行います。
- ☞ 住民が年1回は健康診査を受けて、自分の健康管理に気をつけるよう努めます。
- ☞ 敬老会イベントの回数を増やします。



##### 〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 他地区と合同の敬老会を計画します。
- ☞ 皆が気軽に顔を合わせることができる、よりあい処をつくれます。

## (2) 近隣地区との交流イベントの開催

目指す  
近未来の  
姿

久田小校区内、または瀬地区等、近隣地区と交流会を行っています。

### 〔現状と課題〕

他地区との交流会は行われていない。

### 〔前期（1～5年）の取り組み〕

☞年1回、他地区と合同で交流会を行います。



### 〔後期（6～10年）の取り組み〕

☞親子、敬老会、婦人会などグループでの交流会を開催します。

#### 4. できる限りなりわいを維持し、農村風景を守ります。

目指す  
近未来の姿

現状の田畑をできるだけ維持しています。内山地区を特徴づけている、炭焼きや牛飼も、可能な範囲で続けています。シカやイノシシから山や里を守っています。循環型・有畜複合型農林業を目指しています。

##### 〔現状と課題〕

高齢化が進み、農林業の後継者不足になっている。農業収入が少なく、兼業農家が増えている。シカの食害により、薪炭林の萌芽更新がうまくいかず、樹木が枯死している。

##### 〔前期（1～5年）の取り組み〕

- ☞ 中山間地域直接支払制度などを活用し、組織で団結した農地管理を行います。
- ☞ 農業の初心者でも栽培できる農作物をさがし、兼業農家でも農地が守れる方法を見つけます。
- ☞ 地区内での連携し、栽培作物の買い取り、加工品作りなどの検討を行います。
- ☞ 「芽やし」などの管理をすることで、薪炭林にネットを張るなど、樹木の育成に努めます。

##### 〔後期（6～10年）の取り組み〕

- ☞ 農林業の後継者不足を減らし、内山の農村景観を守ります。
- ☞ 資源の循環を意識し、農地の土壌を改善します。

